

医学教育分野別評価
久留米大学医学部医学科
年次報告書
2025 年度



令和7年8月
久留米大学

医学教育分野別評価 久留米大学医学部医学科 年次報告書 2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2019(令和元)年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

はじめに

2024 年度（受審から 5 年目）においては、「第 27 回医学教育ワークショップ」を同年 8 月に開催し、継続的に改訂が行われている医学教育モデル・コア・カリキュラム、医師国家試験出題基準、医学教育分野別評価基準等への対応を念頭に置き、医学教育環境とカリキュラムの継続的な改善を推進するための重要課題について、学生および教職員が建設的な対話を通じて認識を共有し、共通理解の形成を図った。

本ワークショップにおいては、「本学の授業（方略）の現状と課題」、「グローバルスタンダードな教育プログラム」、「学修成果のモニタリングと教育プログラムの評価」および「プロフェッショナリズムと態度評価」の 4 つのテーマについて、現状の分析と課題の抽出を行い、今後の改善に向けた方策について議論を行った。具体的には、「成人学習理論に関する共通認識の確立と、それに基づく本学での対応策」、「対面講義、オンデマンド講義、問題基盤型学習（PBL）、早期体験実習など、各種学修形態における改善策の検討」、「学修成果と整合性をもったディプロマ・ポリシーの策定」、「プログラム評価のための学修者の成長の包括的記録の必要性とその IR（Institutional Research）による活用方法」、「プロフェッショナリズムに関する共通理解の推進、およびアンプロフェッショナルな行動に対する基準の明確化」などについて活発な意見交換が行われた。

今後は、これらの議論から得られた実践的かつ具体的な改善策を踏まえ、医学教育の質的向上に資する取り組みを継続的に展開していく予定である。

なお、本年次報告書に記載された教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に基づき、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの期間を対象としている。重要な改訂がない項目については、「医学教育分野別評価基準 日本版 Ver. 2. 36」からの転記を省略した。

1. 使命と学修成果

領域 1 の改善項目として、「学修成果をコンピテンシーとして表現する」、「使命に国際的健康と医療の観点を明確に記載する」、「使命・ディプロマポリシーと学修成果の整合性について検討する」などが指摘された。これを受け、本学の「建学の精神」を制定し、使命の内容の変更、学修成果の表現、使命と学修成果の整合性の検討に入った。第 27 回医学教育ワークショップにおいて、使命（ミッション）、ディプロマポリシー、学修成果（卒業時コンピテンシー）が整合性の観点から再検討された。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①「国手の理想は常に仁なり」という医学部医学科の理念の下に、地域社会に貢献できる人間性豊かな実践的人材の育成を目標として、大学の使命に社会的責任を包含している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

第 27 回医学教育ワークショップでは使命とディプロマポリシー、卒業時コンピテンシーの整合性が議論され、その議論に基づき、それらのポリシーが改訂される見込みである。

改善状況を示す根拠資料

第 27 回医学教育ワークショップ記録集（令和 6 年 8 月 3 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①使命に国際的健康と医療の観点を明確に含むことが期待される。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

年度初めの教授会にて大学の理念と使命（教育目的）について審議し、現行の内容が承認された。寄付金を活用した短期海外語学研修、研究室配属（RMCP）での短期海外留学、ハワイ医学教育プログラムなどを通じて、国際的視点を取り入れる教育活動を実施した。今後は、使命の文言を「高水準の医療や最先端の研究を推進できる国際的な人材を育成する」へと拡充する方向で、教授会や医学教育ワークショップにて議論・検討を継続する。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和 6 年 4 月 10 日）

教授会議議事摘録（令和 6 年 7 月 10 日）

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①学修成果は達成を示す形のコンピテンシーとして表現すべきである。
- ②使命・ディプロマポリシーと学修成果との整合性について検討すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教務委員会やカリキュラム委員会における検討結果に基づき、いくつかの取り組みを開始した。2023年度より全学年に拡大して実施している学修到達度・学修成果の自己評価についてのアンケート調査結果を、医学教育研究センターを中心にIRにより詳細な解析を進めている。また、2024年8月に開催した医学教育ワークショップにおいて、「ワークショップの狙い～臨床実習前学生の講義(座学)を考える～」 「昭和大学医学部における学修者本位の教育」というタイトルの講演の後で「本学の授業(方略)の現実と課題」「グローバルスタンダードな教育プログラム」「学修成果のモニタと教育プログラムの評価」「プロフェッショナルリズムと態度評価」の4つのテーマで教員の他に学生も交えてグループディスカッションを行った。ワークショップを通じて学修成果は達成を示す形のコンピテンシーとして明記する方向で進めていく方針を共有した。

2024年度8月に開催された医学教育ワークショップ(サブテーマB:「グローバルスタンダードな教育プログラム」)における議論では、現行の理念、ディプロマポリシーと学修成果の内容を再検討し、まず使命を明記する事、そしてディプロマポリシーと学修成果が相互に整合性がとられた表現に統合・整理を行うことを主たる目標とした。現在の内容に示されているキーワードを分解・抽出し、それらの整合性の確認と整理を行った結果、ディプロマポリシーは5項目に統合され、さらにこの項目毎に対応する学修成果を記載した。今後は得られた成果の検証を行っていく予定である。項目ごとの学修成果の具体的評価については、医学教育研究センターを中心にIRへのデータ集積を継続し、これらを利活用していくよう準備と改善活動を続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録(令和6年5月7日)

教務委員会議事摘録(令和6年9月9日)

第27回医学教育ワークショップ記録(令和6年8月3日)

医学教育研究センター マンスリーレポート No.111(令和6年7月)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①久留米大学病院では独自の臨床研修終了時の学修成果を定め、卒業時の学修成果との整合性をとっている。

改善のための示唆

- ① 医学研究に関して学修成果をコンピテンシーとして明示することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

RMCP は継続して実施しており、その成果は年々蓄積されてきている。研究の延長として、関連学会での発表や論文作成への参画が着実に実施されており、学生の医学研究に対する動機づけの良い機会となっている。これらも含めた医学研究に関する学修成果のコンピテンシーへの明示については、2024 年 8 月に開催された医学教育ワークショップでディプロマポリシーとの整合性の検討に中で一部が議論されたが具体的な内容の明示には至っていない。コンピテンシー 6. 科学的探究心と自己研鑽の中に反映する形を基本として教務委員会、医学教育研究センターを中心に議論を進める。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事録（令和 6 年 12 月 9 日）
医学教育センターマンスリーレポート No. 113（令和 6 年 9 月）
医学教育センターマンスリーレポート No. 114（令和 6 年 11 月）
第 27 回医学教育ワークショップ記録（令和 6 年 8 月 3 日）

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果の策定に関し、教員・職員・学生が参加する医学教育ワークショップを定期的に開催し、議論を重ねたことは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①使命と学修成果について、教育関連病院長や医療関係行政組織担当者など、広い範囲の教育関係者から意見を聴取している。

改善のための示唆

①今後、使命と目標とする学修成果を策定する際には、他の医療職や患者の代表者などからの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

PCCE (Pre-Clinical Clerkship Exercise: 臨床実習前訓練) や OSCE 患者会模擬患者において、看護師・薬剤師・模擬患者など多職種・患者からのフィードバックを収集した。久留米大学教育関連病院長との懇談会を年 1 回以上開催し、教育に係る諸問題について意見交換を行った。今後は、「使命と学修成果」をテーマとする議論を行う機会を設け、医療職（看護師・薬剤師・検査技師など）や患者の代表者からの意見聴取を体系的に実施する。久留米大学教育関連病院長との懇談会を活用してさらなるフィードバック体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和6年4月10日）

教授会議議事摘録（令和6年7月10日）

2. 教育プログラム

領域2の改善項目として、「行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理して科目責任者を明確にする」、「主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保して診療参加型臨床実習を充実させる」、「科目間の水平的統合と垂直的統合を推進する」などが指摘された。これを受け、行動科学は、第2学年の医療概説、第3学年の医療倫理学が別の科目として独立し、第4学年の行動科学は行動経済学や健康行動理論を中心とした科目に再編された。主要な診療科での臨床実習期間の確保、診療参加型臨床実習の充実、科目間の垂直的統合については、引き続き、改善活動が続ける。水平的統合については1年生のプロフェッショナルリズム教育を徹底するために、第一学年の関係する科目が連携して「4科目連合」として枠組みを作っている。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①PBL テュートリアルを独自に発展させた「協同学習」として、チーム基盤学習(TBL)・逆転授業・話し合い学習法(LTD)をさまざまな科目で取り入れていることは評価できる。

改善のための助言

①統合型から改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、卒業時コンピテンスと科目の関連性を明示すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

前年度抽出した学体系別、講座部門別のコンピテンスとして不足している部分を中心に、卒業時コンピテンスとの整合性を取りながら、カリキュラムやシラバスに明示していくよう改善活動を継続中である。可能な限り科目間での重複を避けて、効率的に教育プログラムに落とし込む作業を行っていくが、その一方で科目間の垂直的統合・水平的統合も考慮する必要があり、この点に関してはカリキュラム委員会、教務委員会、医学教育研究センターで連携し検討を進めて行く。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和6年7月4日）

カリキュラム委員会議事摘録（令和6年11月25日）

教務委員会議事摘録（令和6年9月9日）

教務委員会議事摘録（令和6年12月9日）

第27回医学教育ワークショップ記録（令和6年8月3日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①臨床実習において EBM の教育をさらに充実すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

『UpToDate』を活用した学修推進を継続している。学生のみならず、教員も EBM の実践を促している。今後は EBM リテラシー評価法の開発を目指し活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 9 月 27 日）

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 6 年 9 月 30 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.4 行動科学・社会医学・医療倫理学・医療法学

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①「行動科学」の教育プログラムを明確に定義し、社会医学・医療倫理学・医療法学の科目を整理・分類し、それぞれの科目責任者を明確にしてコーディネートすべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教務委員会の作業部会である行動科学部会が改善活動を行っている。従来の行動科学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳから始まる科目名を社会医学・行動科学系という枠組みの中で取りまとめた上で、科目名を具体的な内容を表すものに変更してきた。2024年度は、第1学年で「人間関係論」「地域医療学」「医学心理学」「医学統計学(基礎)」「医学統計学(応用)」「医学入門実習」「施設体験学習Ⅰ」、「第2学年で「医療概説」「法医学」「施設体験学習Ⅱ」、第3学年で「社会と医学・医療(公衆衛生学)」「行動科学Ⅰ」「医療倫理学」「医療安全」、第4学年で「社会と医学・医療(環境医学)」「社会と医学・医療(公衆衛生学)」「行動科学」を社会医学・行動科学系の科目として実施した。(なお、カリキュラム改訂に伴い、カリキュラム改訂前後の学年で同一の科目を開講する必要があった。)

2025年度は、カリキュラム改訂前の第4学年における「社会と医学・医療(公衆衛生学)」で取り扱ってきた疫学に関する内容を整理・分類して「疫学」という科目を新設し第4学年の科目とする。また、カリキュラム改訂前に「行動科学」として取り上げた内容の内、行動経済学や健康行動理論の発展的な内容については「行動科学Ⅱ」として第4学年の科目とする。さらに、「アンプロフェッショナル」な行動を行わないように自らの行動をコントロールできる能力を習得させる目的で「人間関係論」を「医療プロフェッショナリズム」とすることで態度教育の充実に努める。これを基に「医学入門実習」「施設体験学習Ⅰ」「施設体験学習Ⅱ」を通じて「医師を目指す者としての行動」を実践する。各科目終了時に形成的評価を行うが、最終的には科目ごとの評価を共有して総合評価を行うこととする。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録(令和6年11月25日)

社会医学・行動科学系部会議事摘録(令和6年7月19日)

社会医学・行動科学系部会議事摘録(令和6年11月25日)

教務委員会議事摘録(令和6年9月9日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①主要な診療科を中心に臨床実習期間を十分に確保し、診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ②学生が健康増進と予防医学の体験を確実に実践できるカリキュラムを定めるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習期間の確保について、第 6 学年のクリニカル・クラークシップの選択必修科目において、連続する長期間の臨床実習機会を確保している(4 週間×2 クール+3 週間×2 クール)。また、長期間(4~8 週)の長期統合型臨床実習 (Longitudinal Integrated Clerkships: LIC) が行えるプログラムの実践に向けて、富山大学高村教授による講演会を開催した。講演を踏まえて朝倉医師会病院と連携し、本学においても LIC を試験的に開始した。またクリニカル・クラークシップ部会と下部組織のクリニカル・クラークシップ実務者会議が連携して、診療参加型臨床実習の充実を図っている。外来実習の形成的評価を行うため Mini-CEX を試験的に導入した。また、実習内容を体得させるため、実習期間中に協同学習の手法を用いた「振り返りの会」を導入した。第 27 回医学教育ワークショップを開催し、形成的評価の効果的な配分と信頼性・妥当性のある統括評価についての理解を深めた。さらに 2023 年 4 月から診療で使用している電子カルテにアクセスし、学生が記載できるページを新設した新システムの使用状況に関するアンケート調査を行った。また学生と指導医との連絡をスムーズに行うため、各診療科の医局秘書を通じて携帯電話を使用した連絡網を整備した。しかし外部医療施設の指導医に負担が集中することを避けるべく、学内の指導医による学外実習に関する学生の形成的評価の参画も検討中である。クリニカル・クラークシップ部会、とくにクリニカル・クラークシップ実務者会議と臨床実習協議会(複数の学生が参加)が、診療参加型臨床実習を充実させるための方略について、継続的に検討を進めている。

2024 年度のカリキュラム改訂により、健康増進と予防医学の基礎理論である行動経済学や健康行動理論について「行動科学Ⅰ」「行動科学Ⅱ」で学修することとなった。しかし、実習などで具体的に健康増進と予防医学を体験できる内容はカリキュラムで明確に定められているとは言えない状況である。今後は、カリキュラム委員会と教務委員会(主にクリニカル・クラークシップ部会)が協働して健康増進と予防医学の体験を実践できる機会を設けるように改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 6 年 9 月 9 日）
クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 6 年 9 月 30 日）
クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 7 年 1 月 27 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 9 月 27 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 7 年 1 月 9 日）
高村教授講演会ポスター（令和 6 年 7 月 8 日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和 6 年 7 月 19 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①2015 年から導入した新カリキュラムにおいて、低学年から学外の施設で早期体験学習を実施している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

2.6 教育プログラムの構造・構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、科目間の水平的統合を推進することが望まれる。

②改訂した学体系別・講座部門別カリキュラムにおいて、基礎医学・行動科学・社会医学と臨床医学の垂直的統合を推進することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

科目間の水平的統合と垂直的統合については、専門科目を基礎医学系、社会医学・行動医学系、臨床内科学系、臨床外科学系、統合医療系、臨床実習系、クリニカル・クラークシップに系統を分類し、関連の深い科目間における水平的統合の推進を進めた。また各科目がどの系統に属しているかをシラバスに明記し、学年の枠を超えた垂直的統合の可視化を進めている。

今年度は、「医療プロフェッショナリズム」「協同学習」「医学入門実習」「施設体験学習Ⅰ」において講義・実習内容の情報を各科目責任者が共有し、状況に応じて同じ内容の座学と実技を科目間で分担することや、各科目終了時に行われる形成的評価の結果を共有して最終的な総合評価を行うことで科目間の水平的・垂直的統合をより推進する。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和6年11月25日）

社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年11月25日）

教務委員会議事摘録（令和6年12月9日）

2.7 教育プログラムの管理

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①カリキュラム委員会の活動をより実質化し、カリキュラムの改善を計画・実施することが望まれる。

②カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム委員会が、科目再編成を推進している。2024年度は「社会と医学・医療(公衆衛生学)」について社会保障制度論を中心とした公衆衛生行政に関する内容に特化させた。「行動科学」では行動経済学や健康行動理論を中心とした狭義の行動科学に関連する内容とした上で基礎的な内容の「行動科学Ⅰ」と発展的な内容の「行動科学Ⅱ」に分割した。従来は「社会と医学・医療(公衆衛生学)」と「行動科学」に分けていた。

生学)」で取り扱っていた疫学に関する内容は「疫学」として独立した科目とし、令和4年版医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4 コアカリ）を踏まえてより充実した内容にアップデートした。

今年度は、アンプロフェッショナルな行動を行わないように自ら行動をコントロールできる能力を習得させる目的で「人間関係論」を「医療プロフェッショナリズム」とすることで態度教育の充実に努めることとする。また、R4 コアカリを踏まえた形で本学のカリキュラムの問題点について教育評価委員会に意見を求め、その評価結果に基づいてカリキュラムの改善を計画・実施する。また、2024 年度よりカリキュラム委員会に学生が参加するようになった。今後は教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者(他の医療職・患者・地域医療の代表者)を含めるように、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和6年7月4日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和6年11月25日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年7月19日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年11月25日）
教務委員会議事摘録（令和6年9月9日）
教務委員会議事摘録（令和6年12月9日）

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①地域医療連携講座を設置して地域の教育関連施設と連携を取り、卒後の研修や臨床の実践につながる教育を行っている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①カリキュラム委員会を通じ、地域や社会の意見を取り入れて教育プログラムの改良を行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育関連病院長との懇談会を通じて、地域の医療機関からの意見を取り入れる活動を以前から行ってきた。近年は臨床実習において「態度」に問題がある学生の報告が増えている。2024年度の施設体験実習（1年生）で実習先の施設からの評価が「D判定（最低）」とされた学生が複数報告された。この問題について科目責任者とカリキュラム委員会で検討し、アンプロフェッショナルな行動を行わないように自ら行動をコントロールできる能力を習得させる目的で従来の「人間関係論」を「医療プロフェッショナリズム」とし、態度教育の充実に図るなどの改良を行った。今後は、教育

関連病院長との懇談会に加えて、地域や社会からの意見をカリキュラム委員会の活動に反映させるための方策を検討し、現在進行中のカリキュラム改革や教育プログラムの改良に取り入れる形で改善活動を続ける。具体的には、カリキュラム委員会の下に関連する作業部会を設置することを検討している。

改善状況を示す根拠資料

カリキュラム委員会議事摘録（令和6年7月4日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和6年11月25日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年11月25日）
教務委員会議事摘録（令和6年12月9日）
教育関連病院長との懇談会（令和7年3月26日）

3. 学生の評価

領域3の改善項目として、以下の点が指摘された。「学修成果を達成するために学年をまたいだ評価体制を構築すること」、「学生の態度を確実に評価し、その評価を記録する仕組みを強化すること」、「臨床実習において、様々な評価方法や形式を適切に活用すること」、「各科試験、総合試験、臨床実習評価において、評価方法の信頼性と妥当性を検証すること」、「知識、技能、態度における形成的評価を充実させること」、「学生の評価結果に基づいた具体的かつ建設的なフィードバックを、全学生に公正に行うこと」などである。

卒業試験と医師国家試験、および基礎医学 CBT と臨床医学 CBT の成績との相関が検討され、統計的に医師国家試験の成績と相関が認められ、信頼性が確認された。さらに、臨床実習における技能と態度の形成的評価を充実させるため、LMS 上に態度に関する報告項目が設置され、各臨床診療科に周知された。これを契機に各診療科から個別の報告がなされるようになった。また技能の形成的評価については科目責任者にその重要性が認識され、複数の診療科で Mini-CEX を実施している。

今後も、学年をまたいだ評価体制の構築、態度の評価と記録の仕組みの強化、評価方法の信頼性と妥当性の検証、評価結果に基づいた具体的で建設的なフィードバックの実施に向けて、改善活動を継続する。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①独自の試験問題プールシステムの利用により総合試験の充実を図っていることは評価できる。

改善のための助言

- ①第1学年の協同学習では、相互評価や形成的評価を含む多角的な評価方法を導入しているが、学修成果を達成するための評価として学年縦断的な評価体制を構築すべきである。
- ②態度を確実に評価し、評価が記録される仕組みをさらに充実させるべきである。
- ③臨床実習において、Mini-CEX・多面的評価(360度評価)・電子ポートフォリオ評価とクリニカルスキル・トレーニングセンターを活用した評価など、様々な評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用すべきである。
- ④卒業試験以外の評価においても外部の専門家による吟味を一層行うべきである。
- ⑤評価結果に対して正式な疑義申し立て制度を導入すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学生個人の成績推移については前年度の最終的な成績に基づいて一般的評価を行い、年度初めに必要な学生(成績不振者、配慮を要する学生など)に対して面談などでの支援を実施している。具体的な学年縦断的な評価体制については活動を開始した IR 委員会が中心となってデータの利活用を開始しており、今後はそのアウトカムの解析と現場へのフィードバックを進めて行く中で学生カルテと

の連動も含めて評価体制を確立していくよう継続して議論を進めていく。

態度評価については従来規定に沿った運用を継続し、受験資格の判断や進級判定の材料として
いる。特に臨床実習や学外施設見学におけるアンプロフェッショナルな行動については、より厳正
な評価が必要と考えている。臨床実習については Hondana (LMS) 上の学生の行動に関する情報が投
稿できるサイトを利用してリアルタイムでの問題収集を継続している。近年アンプロフェッショ
ナル行動事例の報告数が増加しており、これは全国的な傾向であるともされており、九州北部 6 大
学医学教育連絡会議等での情報共有・収集に努めている。学内で収集された問題は、臨床実習実務
者会議を通じての対応を基本としてきたが、より客観的な評価が可能となるよう、あらたに「プロ
フェッショナルリズム部会」を立ち上げることを 2024 年 8 月の医学教育ワークショップの議論で決
定した。また学生の「行動規範」についても医学教育研究センターが中心となって作成を進めてい
る。今後は IR 委員会が中心となって大枠の設置が完了した「学生カルテ」システムの具体的な利
活用に向けて議論と検討を進めていく。

医療面接・身体診察・臨床推論について Mini-CEX を導入し、6 年生の外来臨床実習にて形成的
評価を試験的に開始した。また診療科独自の OSCE 構築の議論も開始した。今後全診療科の教育場
面での実践的、かつ積極的な運用に結びつける予定である。また、経験すべき症候・臨床技能、態
度評価、形成的評価、学生の問題行動の是正対策を Hondana 上で入力するシステムを構築した。こ
れにより、形成的評価を学生にリアルタイムにフィードバックすることが可能になった。今後は形
成的評価を集積し、態度について総括的に解析していく。また、学外実習者に対しても定期的面談
も実施した。クリニカル・クラークシップにおいて看護部と協議を行い、看護師による 360 度評価
の導入を目指す方向である。各学生が経験した症例に関する学習については、レポートや実習最終
日の総括におけるプレゼンテーションが主であったが、実習内容を体得してもらうため、さらに協
同学習による「振り返りの会」を導入した。また、令和 5 年度ベストクリニカルティーチャー・診
療科賞を選出すると同時にベストクリニカルスチューデント賞を設立する事にした。近年、様々な
理由による配慮が必要な学生が増えており、教務委員長・主任教授・教育主任を中心に実習関係者
と事務担当者が情報共有し、実習開始前より綿密な対策を行えるようにした。

特に高学年の学修状況については、個別の面談による外部専門家によるアドバイスをもらって
いる。各カリキュラムや卒業試験以外の総合試験、各科試験についての外部専門家による評価は未
実施であり、今後はその体制をどのように構築するか議論を進めて行く。

評価結果に対する疑義申し立て制度については従来の体制が継続されておりまだ正式な制度構
築に至っていない。現状の体制での課題を抽出し、より実情に合った、かつ円滑に運用できる制度
がどうあるべきかの議論を教務委員会と医学教育研究センターが中心となって進めて行く。

改善状況を示す根拠資料

IR 委員会議事摘録（令和 6 年 5 月 24 日）
第 27 回医学教育ワークショップ記録（令和 6 年 8 月 3 日）
教務委員会議事摘録（令和 6 年 6 月 10 日）
教務委員会議事摘録（令和 6 年 12 月 9 日）
教務委員会議事摘録（令和 7 年 1 月 7 日）
医学教育研究センター マンスリーレポート No. 111（令和 6 年 7 月）
クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 6 年 9 月 30 日）
クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 7 年 1 月 27 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 9 月 27 日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 7 年 1 月 9 日）
高村教授講演会ポスター（令和 6 年 7 月 8 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①各科試験・総合試験・臨床実習評価などについて、評価方法の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学教育研究センター（FD 委員会）では、毎年、医師国家試験の成績と学内・共用の各総合試験（卒業試験、総合試験、共用試験）の相関を分析し、また外部のコンテンツ提供会社（メディックメディア）と連携して、外部模擬試験や医師国家試験の各領域と全国平均との再分析を引き続き続けている。今後も総合試験や卒業試験、各科試験との相関を分析し、評価方法や進級判定の妥当性と信頼性を検証するように、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

教務委員会議事摘録（令和 6 年 6 月 10 日）

教務委員会議事摘録（令和 6 年 7 月 8 日）

3.2 評価と学修の関連

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

- ①目標とする学修成果の達成を保証する評価であることを検証すべきである。
- ②知識・技能・態度における形成的評価をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

卒業試験 A では、作問した各診療科により問題解説を行う Feedback を行ったことで、学生は自分の学修の不十分な部分を振り返ることができた。その方法に準拠して、各診療科が行う各科試験についても、試験終了後に短い時間でも問題の意図と解答の説明を行うことを提案している。外的動機づけであるにしても、学生は学修しているため、振り返りを行う意欲は高く、より効率的に復習ができることが期待される。また学生の評価については、2024 年度開催された医学教育ワークショップにて学生の態度評価が主テーマの一つとして取り上げられ、客観的な態度評価基準そして行動規範の制定を進めている。

学生の態度評価については、その形成的評価を学生にリアルタイムにフィードバックし、最終的に態度について総括的に評価する体制を模索している。しかし個々の事例の対応が教員によって一定ではなく、道徳的配慮を必要とする案件も増えている。そのため現在、学生委員会の案件として、学生の態度評価の形成的評価を集積し、引き続き行われるべき指導について協議する「プロフェッショナルナリズム部会」の設立にむけて協議が進んでいる。実際、組織のフレームワークは固まり、規約・規程の制定の段階にきている。今後は、入学時から卒業時までの縦断的でシームレスな評価の中に、形成的評価をどのような形で組み込んでいくか、学生員会、教務委員会ならびに医学教育研究センターを中心に議論を行い、教員が日常的な教育活動の中で態度の形成的評価を充実させるように、改善活動を続ける。

知識については総括的評価として学年ごとの各科試験、総合試験での評価を行っている。その中において、卒業試験 A については、終了後に各科目担当者から形成的評価を含む詳細解説によるフィードバックを継続している。各科試験における形成的評価を意図した取り組みはまだ不十分であり、今後検討が必要である。技能については、まず昨年度から開始された 1 年生の医学入門実習での OSCE では実施後の各学生へのフィードバックを継続して行っている。

クリニカル・クラークシップについては、Pre-CC OSCE と Post-CC OSCE に伴う技能実習指導とそ

るよう教員が支援し、理解が不十分な部分は補足を行うように形成的評価をおこなった。さらに経験すべき症候・臨床技能、学生の問題行動の是正対策、態度評価、形成的評価を Hondana 上で入力するシステム案を提案した。これにより、学生自分が学修すべき目標とその到達度を形成的評価されることになり、学生にリアルタイムにフィードバックすることが可能となることが見込まれる。今後 Hondana 上での学修管理を推進していく。さらに医療面接・身体診察・臨床推論について Mini-CEX を導入し、形成的評価を 6 年生の外来臨床実習で試験的に開始した。

しかしながら、上記の取り組みはまだ十分に浸透しておらず、今後は実情に合った実施方法をクリニカル・クラークシップ部会と医学教育研究センターの臨床実習部門で具体的に検討していく必要がある。また mini-CEX にとどまらず診療科独自の OSCE 構築の議論も開始した。今後全診療科の教育場面での実践的、かつ積極的な運用に結びつける予定である。

以上の状況を踏まえ、総合的・実践的な診療能力の視点から医学教育研究センターが適宜教務課のデータを使って検証し、教務委員会、教授会で定期的に報告している。

卒業試験を含む総合試験成績に関しては、これまで集積したデータを用いた客観的評価が可能なレベルまで来ており、今後医学教育研究センター、IR 委員会を中心に解析を進め、個々の学生へ形成的評価結果のフィードバックを行うよう検討を続ける。

態度における形成的評価については、2024 年 8 月の医学教育ワークショップにおいてサブテーマ D として「プロフェッショナリズムと行動・態度評価について」の議論を行った。その中でアンプロ行動の線引きの曖昧さとプロフェッショナリズムについての共通理解の不足の 2 つが課題として挙げられ、これらに対する具体案として行動規範の策定、プロフェッショナリズム部会の設置を進めることが提言され、それぞれ具体的な作業を開始している。プロフェッショナリズム部会ではその形成的評価を集積し、タイムリーに学生にフィードバックを行って医師として求められる態度の修得の支援に結びつけたいと考えている。近年、配慮が必要な学生が増えており、その対応窓口としてプロフェッショナリズム部会の設立が求められている。

さらに、学生が自身の学修成果を自己評価できるマイルストーンの明確化が求められており、カリキュラムの教育課程と学修評価について、卒業時コンピテンスごとに全学年の学生と教員が双方向で成果を達成できているかどうかモニターできるマイルストーンの作成が必要である。

改善状況を示す根拠資料

第 27 回医学教育ワークショップ記録（令和 6 年 8 月 3 日）

医学入門実習部会議事摘録（令和 7 年 2 月 17 日）

教務委員会議事摘録（令和 6 年 5 月 7 日）

教務委員会議事摘録（令和 7 年 2 月 10 日）

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 6 年 9 月 27 日）

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和 7 年 1 月 9 日）

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 6 年 9 月 30 日）

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和 7 年 1 月 27 日）

医学教育研究センター マンスリーレポート No. 111（令和 6 年 7 月）

OSCE 部会議事摘録（令和 6 年 8 月 26 日）

卒業試験部会議事録（令和 7 年 3 月 4 日）

高村教授講演会ポスター（令和 6 年 7 月 8 日）

2024 年度医学教育ワークショップ報告集

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに適切な試験の回数と方法を検討することが望まれる。

②全学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的・建設的・公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

各学年における試験の実施回数は、前年度と同様でほぼ固定化されて実施している。同時に特に各学年の総合試験については、医学教育研究センターでのデータ集積が進んでおり、今後これまで不明確であった判定基準に関してある程度の基準を設ける方向性が見えてきているので継続して検討を行う。もう一つの課題である各科試験については、科目間の評価基準や最終的な判定方法に依然としてあいまいな部分が多いため、データ集積とともに科目担当者間での情報共有を図る機会を設けることを検討中である。

形式的評価の適切な実施法の検討を進めるのと並行して行っている各学年での評価機会の設定についての議論はまだ道半ばである。特に学修量が急に増加する第3学年と第4学年での短期集中型講義における試験後の解説講義については積極的な導入を検討しているが、カリキュラム編成上、時間の確保が困難であり、あらたな形式での実施方法を教務委員会、カリキュラム委員会、医学教育研究センターで議論を進める。また座学の在り方については2024年8月の医学教育ワークショップで議論し、その結果に基づいた検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

卒業試験部会議事録（令和6年3月4日）

卒業試験部会議事録（令和7年3月4日）

教務委員会議事摘録（令和6年6月10日）

第27回医学教育ワークショップ記録（令和6年8月3日）

4. 学生

領域4の改善項目として、「使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参画する」などが指摘された。これを受け、学生は学修対策部会やPCCE部会に積極的に参画しているが、使命の策定や教育プログラムの管理を審議する委員会への参画については、引き続き、改善活動を続ける。カリキュラム委員会に学生が参加するようになった。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①多様な入学者選抜方法を採用している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①地域や社会からの要請に応じて入学者数を定め、それぞれの入学卒の募集人員を調整している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①入学時から卒業時まで継続して個々の学生をきめ細かくサポートする学内コンサルタント制度を導入し、機能していることは高く評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①使命の策定と教育プログラムの管理を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学修対策部会（第4～6年生が委員として参加）、および第4学年のPCCE（臨床実習前演習）部会への学生参加は継続して行われており、カリキュラム委員会における学生委員の設定も従来通りである。それ以外の教務関係委員会への学生参加は実現していない。一方で2024年8月の医学教育ワークショップには7名の学生の参加があり、それぞれテーマごとに議論に加わり、非常に積極的な意見交換が行われたことは今後学生参加を推進する上での励みになった。その他実現可能性のある対応として、学修対策部会への低学年の参加も進め、部会の体制拡大を今後検討していく。学生参加の適切な在り方・機会を検討しつつ、教育プログラムの管理に関してはできるだけ積極的に学生の参加を推進していくよう、教務委員会を中心に改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

学修対策部会議事摘録（令和6年5月21日）

学修対策部会議事摘録（令和6年10月29日）

第27回医学教育ワークショップ記録（令和6年8月3日）

教務委員会議事摘録（令和6年11月11日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5. 教員

領域5の改善項目として、「教員活動評価システムを活用して教員の活動や能力開発にフィードバックする方策を確立する」、「講師や助教が医学教育ワークショップに積極的に参加してカリキュラム全体を理解する」などが指摘された。

基本的に教員の教育能力を高めるため、令和4年度に医学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂されたことを機に、アウトカム基盤型教育を学ぶe-Learning教材を医学教育研究センターで作成し、FDとして受講させた。さらに久留米大学医学部が直面する学生の学修に関する問題点を能動的に学ぶためコロナ禍で開催できなかった医学教育ワークショップを4年ぶりに開催した。低学年の座学、high-stake holderのCBTや医師国家試験における現状、プロフェッショナリズム教育の現状をセミナーで共有した。そして小グループに分かれて教員が議論を行い、対策案を立案した。このように若手教員の能力開発に、LMS上に設置したe-Learning教材やワークショップでの能動的学修の機会を活用したが、教員の教育活動に関する方針の策定と教員の活動を把握・評価。活用する方策の確立については、引き続き、改善活動が続ける。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①教員の募集選抜に関する方針として、「求める教員像と教員組織の編制方針」が策定されていることは評価できる。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①地域医療連携講座を開設し、地域医療教育に関する教員を選考していることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育ワークショップを定期的に行い、種々の教育上の課題について議論している。

改善のための助言

- ①教員の活動を評価するシステムを活用し、エフォート率などを把握・評価してフィードバックする方策を確立すべきである。
- ②個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。
- ③講師や助教等の若い教員のFDへの参加率を向上させるべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育評価委員会（三部門会議）から提出された「教員の教育活動と能力開発に関する方針」および「教育スタッフ研修会の指針」が教授会にて承認された。電子FD（e-learning）形式の研修を実施し、第1回419名、第2回434名、第3回265名が受講した。今後は、FDの実施体制を強化し、教員活動の定量的把握とフィードバックの仕組みを整備すると共にFDプログラムを継続的に展開し、若手教員の能力開発と教育理解を促進する。

前年度に進めた教育FDのシリーズ化を継続するだけでなく、より一般的なFDコンテンツを提供するために外部コンテンツの活用を進めた。外部コンテンツは、岐阜大学医学教育開発研究センター提供の「医療者教育スターターキット」を利用した。このコースは218名が受講した。同様にこのコースのPV（Page View）数は、ピーク時の3か月間で、24,000であった。今後のシリーズとして、「授業設計」や「学習者評価」を主体としたカリキュラム開発を予定している。また、このFD提供方法として、対面形式、e-Learning、ビデオオンデマンドなど提供形態を多様化し、また、同コンテンツの開講数を増やす（複数回行う）など、受講者を増やす工夫を行う。受講者への評価の一環として、外部コンテンツである岐阜大学提供の全コンテンツ受講完了者に対しては、受講証明書の発行などを予定している。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録（令和6年6月12日）

医学科FD委員会議事摘録（令和6年5月30日）

電子シラバス（Hondana）ログ記録

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6. 教育資源

領域 6 の改善項目として、「診療参加型臨床実習の実質化に向けて学内外の指導者の能力向上を図ること」、「学生の電子カルテへのアクセスを確保すること」などが指摘された。これを受け、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習の改善に取り組み、クリニカル・クラークシップ実務者会議と学生が参加する臨床実習協議会を発足させ、学生と教員からの意見収集に努めた。

臨床実習における電子カルテの使用については、2023 年 4 月から学生（Student Doctor）に電子カルテの権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載できるようにした。診療参加型臨床実習の充実については、現場の教員と学生が議論を重ねながら、臨床実習の指導者の能力向上や学生の電子カルテのアクセス確保について、今後も改善活動が続ける。

6.1 施設と設備

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①旧病棟と旧外来棟を有効に活用し、学生の自習室と共同学習室を確保している。
- ②実践的な臨床技能の教育・訓練を実施するためのクリニカルスキル・トレーニングセンターを設置している。
- ③学生の課外活動のための部室棟や学生の休憩用スペースが整備されている。

改善のための助言

- ①水害などの災害に対する避難訓練、確実な安否確認方法の整備、災害後の復旧・事業継続計画を検討し、実施すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

学校法人久留米大学将来構想 VISION 2022-2026 に明記された行動目標に沿って、医学部災害対策 WG を設置し、安否確認方法や避難訓練、事業継続計画（BCP）の策定を進めた。今後は、災害対策 WG が中心となり、避難訓練の定期実施、安否確認方法の整備、BCP の完成・運用を段階的に進め、教育活動への支障を最小化する体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

学校法人久留米大学将来構想 VISION 2022-2026

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①学生からの要望を反映させ、教育の施設設備を整備している。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ① 学生が臨床実習で適切な臨床経験を積めるように患者数と疾患分類を確保している。

改善のための助言

- ① 診療参加型臨床実習の実質化に向けて、学内外の指導者に対しても指導能力のさらなる向上を図るべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

診療参加型臨床実習の実質化に向けて、クリニカル・クラークシップ部会が臨床実習指導者研修会(Web-FD)を開催し、改善活動が続ける。教員、特に臨床系の教員は働き方改革の導入により教育への負担を重く感じるようになっている。そのためFDはe-Learningによる配信で教員がオンデマンドで学習できる環境をより充実していく予定である。また一方向性で聞くばかりでなく、その理解を深めるため、それぞれのe-Learning教材には知識確認問題を設定した。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和6年9月30日）
クリニカル・クラークシップ部会議事摘録（令和7年1月27日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和6年9月27日）
クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録（令和7年1月9日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①導入した電子シラバスを初めとして、情報通信技術をさらに有効かつ倫理的に活用すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

電子シラバス (Hondana) については、現在までに登録ユーザ数が約 6,000 名となった。また COVID-19 後は、教室の WIFI 環境の向上により、電子シラバスに提示されたデジタル資料の活用が進んでおり、また、オンデマンドによる動画配信も相まって、多くの学生がタブレットやノート PC などを通じてデジタル資料を参考にしながら授業を受ける形態が主流となった。

学生の授業への出席状況を自動集計する出席管理システム (ATTENDS) を改修し教務システムと連動して、学生の出席状況をより詳細に集計できるようになった。教学 IR については、各委員会、各講座、各教員からの教学データの利活用を推進するために、WEB による教学 IR 申請の窓口を作成した。現在までに、各委員会、各講座、各教員から IR の依頼が 11 件あり、IR 委員会での承認を経て、医学教育研究センターでデータの集計・分析をおこないフィードバックを行った。今後もこの活動をより充実させ、データの利活用を進めていく。また、定期的・季節的な IR については、学生カルテ (仮称) の制作を進めており、現在までに、各学生の学修成果を集計するインターフェースが完成している。

データサイエンス・AI などの教育への利活用を推進するために、医学教育研究センターに情報科学部門が開設され、当該部門が、医学科における IT システムの管理、運用、開発、研究の中心的役割を担うこととなった。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センターホームページ：医学科医学科 IR (<https://csme.kurume-u.ac.jp/ir/>)

医学教育研究センターマンスリーレポート No. 109 (令和 6 年 5 月)

医学教育研究センターマンスリーレポート No. 111 (令和 6 年 7 月)

医学教育研究センターマンスリーレポート No. 113 (令和 6 年 9 月)

教務課学生カルテ仕様打合せ資料 (令和 6 年 10 月 22 日)

教務課学生カルテ仕様打合せ資料 (令和 7 年 2 月 19 日)

教務課学生カルテ仕様打合せ資料 (令和 7 年 3 月 13 日)

教務課学生カルテ画面集

教授会議事摘録 (令和 6 年 6 月 12 日)

質的向上のための水準

特記すべき良い点 (特色)

①情報通信設備が整備され、自己学習への活用が行われている。

改善のための示唆

①診療参加型臨床実習の実質化のために、学生の電子カルテへのアクセスを確保することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

臨床実習における電子カルテの使用については、2023 年 4 月から電子カルテに学生 (Student Doctor) の権限を追加し、「学生の診察記事」として電子カルテに直接記載できるようにしている。本システムの使用状況に関するアンケート調査を行い、問題点や改善点を洗い出し、改善活動が続ける。

改善状況を示す根拠資料

クリニカル・クラークシップ実務者会議議事摘録 (令和 6 年 9 月 27 日)

クリニカル・クラークシップ部会議事摘録 (令和 6 年 9 月 30 日)

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①医学教育研究センターが、マンスリーレポートやニュースレターを活用して、積極的に教育情報を発信している。
- ②文学部の教育専門家が教育技法の開発に参画している。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①研究室配属(Research Mind Cultivation Program)では、海外や国内の先端研究機関での実習機会を設けている。

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①国際交流の強化に向けての担当部門を設置している。

改善のための示唆

①教職員と学生の国内外の交流に対して経済的支援の強化が望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

同窓生からの寄付(大塚量久留米大学医療振興基金)を活用した海外短期語学留学制度を利用し、医学科第2学年2名がこれを利用した。また、大学におけるダイバーシティ・インクルージョンの面から、国内外交流の推進を行っている。研究室配属(RMCP)において、第3学年の9名が短期国外留学を行った。また、複数の海外の大学から短期留学生を13名受け入れた。ハワイ医学教育プログラムを利用し、医学科第5学年2名が実習を受けた。今後は、国内外の交流機会に対する経済的支援を、大学独自の奨学金や外部資金活用の形で強化する。

改善状況を示す根拠資料

教授会議議事摘録(令和6年6月12日)

RMCP 部会議事摘録(令和6年7月1日)

教授会議議事摘録(令和6年7月10日)

教務委員会議事摘録(令和6年4月8日)

教務委員会議事摘録(令和 6 年 10 月 7 日)
教務委員会議事摘録(令和 7 年 1 月 7 日)
教務委員会議事摘録(令和 7 年 3 月 10 日)

7. 教育プログラム評価

領域 7 の改善項目として、「教育課程と学修成果を定期的に監視するプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価結果をカリキュラムに確実に反映する」、「教育評価委員会のカリキュラム評価部門で包括的なプログラム評価体制を充実させる」、「教員や学生からのフィードバックを系統的に集積・分析するシステムを構築する」、「フィードバックの分析結果に基づいたプログラムを開発する」、「学生や卒業生の実績を集積・分析する」、「広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築する」などが指摘された。

これを受け、カリキュラムの PDCA サイクルについて、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会のカリキュラム評価部門がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うことを教職員全員に周知した。そしてカリキュラム評価結果をカリキュラム改善に反映するため、カリキュラム評価部門は、IR 部門を経由した教学データの収集を行い、包括的なプログラム評価ができるような体制を充実させることを目指すとした。学生や卒業生の実績の集積と分析、広い範囲の教育関係者のカリキュラムに関する意見を収集する具体的なシステムの構築については、引き続き改善活動が続ける。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①カリキュラムの教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムを設け、プログラムを着実に評価し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

1 つ目の回答(カリキュラム委員会：谷原教授より)

教育課程と学修成果を定期的にモニタするプログラムとして、全学生を対象にした学生アンケートを毎年行っている。具体的には第 6 学年を対象とした卒業時アンケート、第 1 学年～第 5 学年を対象とした進級時アンケートを実施している。アンケート調査結果は、医学教育研究センターが IR として集計と分析を行った。その結果、学生から教員と学生間の距離が近く教員の教育意欲の高さは評価されていた。しかし教育 1 号館の老朽化や勉強空間の不足、試験の厳しさ、進級判定の厳しさが問題として挙げられた。教育評価委員会からはコロナ禍を契機とした留年者の増加、進級率の低下が指摘され、改善が求められていた。

この IR の分析結果を評価するため教育評価委員会に教務、教員、カリキュラム評価に関する部門を設置した。カリキュラム評価部門は IR データをもとに評価を行っていくようにシステムを整備した。すなわち学修成果、学生アンケート、卒業生アンケートや医学教育ワークショップの成果などを定期的にモニタリングおよび評価を行い、評価の結果がカリキュラムに反映されるように教務委員会・カリキュラム委員会と緊密に連携して改善活動を続けていくようにした。

教育評価委員会は評価とまとめを行い、教務委員会と教授会で報告し、ニュースレターとして講座や部署に配布し、学内の掲示板(電子掲示板を含む)に掲示し周知していきたいと考えている。

改善状況を示す根拠資料

教育評価委員会（令和 6 年 6 月 3 日）
教務委員会議事摘録（令和 6 年 6 月 10 日）
第 27 回医学教育ワークショップ記録（令和 6 年 8 月 3 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①教育評価委員会の下部組織であるカリキュラム評価部門での包括的なプログラム評価体制を充実させることが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教務課から事務担当者が選任され、カリキュラム評価部門の体制が整備された。今後、本部門において、学生の進級時、卒業時アンケート、および各講義に対する学生評価のデータを IR 委員会と連携して分析・検証し、カリキュラム委員会に改善の必要性がある項目を提言していく。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①教員や学生からのフィードバックを系統的に集積し、分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

教育 FD 実施の際に教員の意見収集を行っているが、より多くの教職員からの意見を収集するため、教育主任アンケート、教職員アンケートの導入を推し進め、意見集約、分析・検討、フィードバックができるよう、改善活動を継続する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

①フィードバックのデータを分析し、プログラムを開発することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラム評価部門の提言に従い、医学部医学科 6 年間通年でアクセスできる選択制プログラム「医療医学総論」を提言していく。著作権の問題、また学則上の問題などクリアすべき項目があ

り、その対応に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

- ①2019年に医学部同窓会員に対して卒業生アンケートを実施した。

改善のための助言

- ①学生や卒業生の実績を集積・分析するシステムを構築すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

IR委員会が設立されたので、IRとして教学データの収集を継続する。その分析結果を教育評価委員会で評価し、その結果についてカリキュラム委員会、教務委員会にフィードバックする予定である。今後も定期的に調査・データ収集を行い、分析するシステムを構築できるよう、医学教育研究センター、教務課、臨床研修センター、医学部同窓会で連携し、改善活動の協議を継続する。

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

- ①学生選抜・カリキュラム立案・学生カウンセリングに関する学生の実績を分析し、責任ある委員会にフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

今後教育評価委員会のカリキュラム部門では、客観的な学生の到達度を提供できる学生カルテの導入について提言していく。また入学者選抜やカリキュラム立案に関する学生の実績を収集・分析し、アドミッション検討委員会やカリキュラム委員会にその結果をフィードバックするように、改善活動を継続する。学生の学修のアウトカムとして共用試験、医師国家試験が客観的データとして収集が可能であり、IR委員会にそのデータの収集、提示を求め、カリキュラム評価部門で検証していく。

改善状況を示す根拠資料

なし

7.4 教育関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ①卒業生の実績について、同窓会や臨床研修センターからフィードバックを得ている。

改善のための示唆

- ①教育課程とプログラム評価を確実に実施し、広い範囲の教育関係者が閲覧することが望まれる。
- ②広い範囲の教育関係者からカリキュラムについての意見を収集するシステムを構築することが望まれる。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

4月に関連部会を招集し、今年度の改善に向けた見直しと検討を実施した。特に、幅広い教育プログラムの実施に関わる情報の収集・発信が可能となる体制の構築を検討し、その方針を含めた今年度の活動方針を決定した。

例年通り『医学教育ニュース』を年3回の発行予定で準備を進めたが、第3号については事情により発刊できなかった。第1号および第2号は発行し、教育に携わる教員、学外ステークホルダー、そして全ての学生が閲覧可能な環境を整備した。今年度は特に、教育課程の内容とその成果が確実に周知されるよう、掲載内容の調整を行った。

以下に主な記事の内容を示す：1. キャリアパスと医学教育の関連性に関する事例紹介：救急医学に従事する医師が、DMATとして災害地派遣に挑んだ経験をもとに、キャリアと医学教育の接点について寄稿いただいた。2. 学生の視点を反映した教育評価の共有：直近の国家試験を受験し、現在初期研修医として勤務する医師に、「医師としての心構え」とそれを支えた医学教育の意義について、自身の体験をもとに執筆いただいた。3. 医学教育ワークショップで議論された内容の紹介 4. 医学教育学会及び教務委員会で重要議題となったアンプロフェッショナルリズムについてその問題意識を高めるための記事。5. 新任教授による教育理念の紹介：今年度より着任した教授に、教育に対する理念と抱負などについてご執筆いただいた。これらは、紙媒体および電子媒体の『医学教育ニュース』として発信し、学内掲示板やチャットツール、電子シラバス（Hondana）、医学部ホームページなど、複数のチャンネルを通じて教職員および学生に配信した。

一方で、カリキュラムについての意見収集のシステム構築については、電子シラバスにコーナーを設けるなど、投稿の入口を設置したものの、こちらからの依頼に対しては一定の意見を得られたが、さらに多様な関係者から継続的かつ自発的なフィードバックを得る仕組みについては、いまだ最適な方法が見出されていない。今後も他部会との連携を含め、引き続き検討を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

広報活動部会議事摘録（令和6年4月24日）

教務委員会議事摘録（令和6年5月7日）

教授会議事摘録（令和6年5月8日）

医学教育ニュース 72号（令和6年8月9日）

医学教育ニュース 73号（令和6年10月31日）

8. 統轄と管理運営

領域 8 の改善項目としては、「設置が計画されている『医学 IR センター』に十分な資源を配分する」が指摘された。これを受け、教育活動を高めるための環境整備とコロナ禍の学生の生活支援を行うとともに、IR センターに十分な資源を配分するように、改善活動が続ける。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

①設置が計画されている「医学 IR センター」に十分な資源を配分すべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

医学 IR センターに必要な人員・機材・予算の確保を図り、教育の質の保証と可視化に努めてきた。IR 委員会を設置し、学修成績・進級状況・国家試験成績との関係を可視化するための情報基盤を構築中である。さらに富士通の IR 分析システムを導入し、成績情報の蓄積と分析が進行中である。今後は、IR 委員会および IT 部会にて情報分析の精度向上とフィードバック体制を整備する予定である。

改善状況を示す根拠資料

医学科 I R 委員会事摘録（令和 6 年 5 月 24 日）

教授会議議事摘録（令和 6 年 6 月 12 日）

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

①自己点検・評価委員会に外部検証を実施する機関として学外者による外部評価委員会を組織し、教育・研究水準の向上と組織の活性化に資する評価と提言を行っていることは評価できる。

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための助言

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

なし

改善のための示唆

なし

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

とくになし

改善状況を示す根拠資料

なし

9. 継続的改良

領域9の改善項目として、「教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組む」などが指摘された。これを受け、カリキュラムの内部質保証として、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターがIR機関となって各種情報の収集や分析を行い、そのデータを基に教育評価委員会がカリキュラムの評価(C)を行う。教育評価委員会からのフィードバックをカリキュラム委員会は受けた後、カリキュラムの改善(A)のための計画を行い、教務委員会が実行する(PDCAサイクル)一連の流れを確認した。教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターは、3年後(2026年度)の受審に向けて、定期的・継続的に連携してカリキュラムの改善に取り組む。

基本的水準

特記すべき良い点(特色)

①独自の能動的学修手法として「協同学習」を導入したことは評価できる。

改善のための助言

①教務委員会・カリキュラム委員会・教育評価委員会・医学教育研究センターの連携を進め、定期的・継続的にカリキュラムの改善に取り組むべきである。

関連する教育活動・改善内容・今後の計画

カリキュラムの継続的な改良のために、カリキュラム委員会がカリキュラムの計画や策定(P)、教務委員会がカリキュラムの実施や実行(D)、医学教育研究センターと教務課が情報の収集や分析、教育評価委員会(カリキュラム評価部門)がカリキュラムの点検や評価(C)、教務委員会がカリキュラムの対処や改善(A)を行うといったそれぞれの委員会の具体的な構成と役割を明確化し独立して活動を行っている。今後も継続的な改善を行う体制(PDCAサイクル)の中で連携を強化していくことを目指している。カリキュラムの立案・修正に関しては、カリキュラム委員会が中心となって、改訂コア・カリキュラムに準拠した教育カリキュラム改良への取り組みを継続している。具体的には、2024年度教務委員会の作業部会である行動科学部会と連携して行動科学の再編と疫学の新設再編するなどの形でカリキュラム改善を行った。

今後のカリキュラム評価(C)に関しては、医学教育研究センターを中心としたIR委員会を設置してIR機能(情報の収集や分析)を強化していく方針が決定した。IR委員会を中心として学生の学修データの収集と分析を行い、その分析結果を教育評価委員会が評価を行ってカリキュラム上の問題点を抽出し、カリキュラム委員会にフィードバックを行いPDCAサイクルを回していく。

また教育評価委員会は、使命、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの整合性を検証し、学生に提示されたコンピテンシーが達成されているかの評価を進めていくが、今回2024年8月の医学教育ワークショップでその一部の議論が行われた。そのプロダクトをカリキュラム委員会や教務委員会に提示して、今後の継続した改善に結びつける方向で進めている。

改善状況を示す根拠資料

医学教育研究センター マンスリーレポート No.117（令和7年1月）
カリキュラム委員会議事摘録（令和6年7月4日）
カリキュラム委員会議事摘録（令和6年11月25日）
教務委員会議事摘録（令和6年6月10日）
教務委員会議事摘録（令和6年9月9日）
教務委員会議事摘録（令和6年11月11日）
教務委員会議事摘録（令和6年12月9日）
第27回医学教育ワークショップ記録（令和6年8月3日）
IR委員会議事摘録（令和6年5月24日）
教育評価委員会（令和6年6月3日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年7月19日）
社会医学・行動科学系部会議事摘録（令和6年11月25日）

質的向上のための水準（評価を実施されず）

久留米大学医学部医学科 年次報告書

発行日 2025 年 8 月 19 日

発行者 久留米大学医学部医学科
〒830-0011 久留米市旭町 67
TEL 0942-31-7527
FAX 0942-31-4374

印 刷 医学部事務部庶務課